

1 産地の概要

＜対象地域＞ 安城市、碧南市

＜対象品目＞ ハウスいちじく

＜産地の現状・課題＞

- ・JAあいち中央いちじく部会の部会員157戸のうちハウスイチジク生産者は22戸329a。出荷量は68t(R3年産)である。
- ・イチジク専作で農業収入800万円を目指すためには、露地イチジクとハウスイチジクの周年栽培が必須である。
- ・ハウスイチジクの栽培管理は、生産者個人の経験や知識に依存しており、技術に差が見られる。生産者個人の経験と勘に頼った栽培管理からの脱却管理のため、ハウス栽培管理(温度・かん水)とハウス環境データの相関を見える化し、栽培技術の高位平準化とハウス環境データを基にした栽培管理技術体系作りが急務である。

2 検討体制

＜JAあいち中央ハウスいちじく協議会構成員と役割＞

- ・JAあいち中央いちじく部会(実証ほ場の管理、技術の評価)
- ・JAあいち経済連(検討会・検証への参画、技術普及推進への協力)
- ・JAあいち中央(検討会の開催、実証結果の分析、事務局)
- ・愛知県西三河農林水産事務所農業改良普及課
- ・愛知県農業総合試験場(進行管理、栽培指導、実証結果の分析、技術の評価、技術普及推進)



第5回検討会議の様子

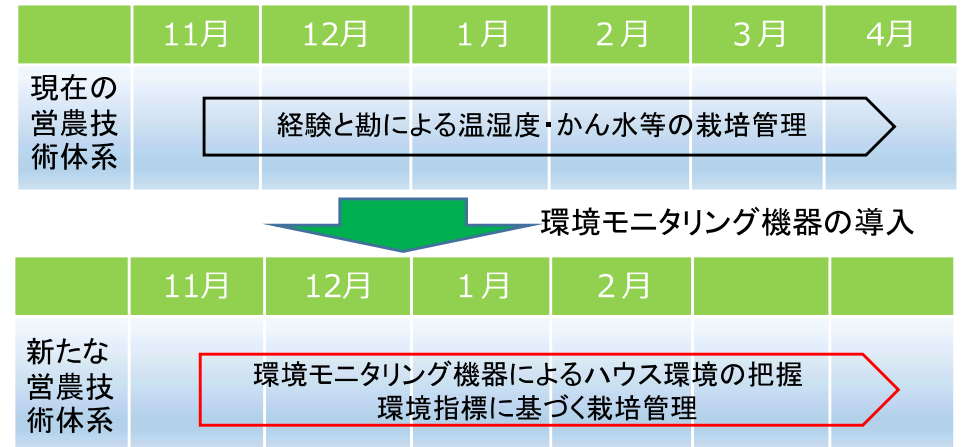


モニタリング本体(『はかる蔵』)

3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

実証で得られたハウス栽培の温湿度等の管理指標に基づく栽培管理が行われる。環境モニタリング機器の導入により、栽培初心者でもハウス内環境データに基づいた栽培管理と技術改善ができ高品質安定生産が実現できる。既存の生産者では、環境モニタリング機器により、問題点の把握と解決が図られる。継続的な環境モニタリング調査によりハウス内環境データと生育状況から、ハウス栽培管理指標の精度を高め、ハウス栽培の産地全体のレベルアップにつなげる。



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

現状 管理指標なし → ハウス栽培の温湿度、かん水管理指標の作成

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R 4	R 5	R 6
愛知県 農業改良普及課			
J A あいち中央 J A あいち経済連			
ハウスいちじく生産者			